

大学等名	札幌市立大学
プログラム名	SCU数理・データサイエンス・AI教育プログラム

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違しない

② 対象となる学部・学科名称

③ プログラム履修必須の有無

令和10年度以降に履修必須とする計画、又は未定

④ 修了要件

科目「現代社会論E(情報科学)」を履修し、2単位を修得すること。

⑤ プログラム構成科目

必要最低科目数・単位数	1	科目
	2	単位

			モデルカリキュラム対応状況																					
	授業科目	単位数	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	4-1	4-2	4-3	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	その他	
(1)必須科目(プログラムを修了するために必ず履修しなければならない科目) ※卒業要件上の必修科目とは必ずしもイコールではない	現代社会論E(情報科学)	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○						○	○	
(2)選択必須科目(プログラムを修了するために一定の条件のもと履修しなければならない科目)																								
(3)選択科目(プログラムを構成する科目のうち「必須科目」「選択必須科目」のいずれにも該当しない科目)																								

⑥ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		授業に含まれているスキルセットのキーワード
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	【第1-2回】 ・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化 【第5-8回、第14回】 ・複数技術を組み合わせたAIサービス
	1-6	【第5-8回、第14回】 ・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、強化学習、転移学習、生成AIなど) ・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	【第3回】 ・1次データ、2次データ、データのメタ化(メタデータ) ・データのオープン化(オープンデータ) ・構造化データ、非構造化データ ・データ作成(ビッグデータとアノテーション) ・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど
	1-3	【第1回】 ・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など) 【第3回】 ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など 【第14回】 ・対話、コンテンツ生成、翻訳・要約・執筆支援、コーディング支援など生成AIの応用
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	【第1回】 ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ 【第3回、第5-8回】 ・データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見、最適化、モデル化 【第4回、第6回】 ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化 【第14回】 ・生成AIの活用(プロンプトエンジニアリング)
	1-5	【第3回】 ・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案)
(4) 活用に当たったの様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	【第2-3回】 ・データバイアス 【第10回】 ・倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical, Legal and Social Issues) ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト ・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護 ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断) 【第14回】 ・生成AIの留意事項(ハルシネーション、偽情報や有害コンテンツの生成・氾
	3-2	【第9回】 ・情報セキュリティの3要素(機密性、完全性、可用性) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介 ・サイバーセキュリティ
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	【第2回】 ・データの種類(量的変数、質的変数) 【第3回】 ・打ち切りや欠測を含むデータ 【第4回】 ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値) ・データのばらつき(分散、標準偏差)、外れ値
	2-2	【第4回】 ・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ) 【第6回】 ・優れた可視化事例の紹介
	2-3	【第3回】 ・データの取得(機械判読可能なデータの作成・表記方法) ・データの集計 ・データの並び替え ・データ解析ツール ・表形式のデータ

⑦プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- ・データサイエンスやAIに関する基礎的な事項の理解
- ・データーテラシー、AIリテラシー
- ・社会におけるデータサイエンス・AIの活用状況や活用アイデア
- ・データやAIの活用上の留意事項を身につけることができる。

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和7 年度(和暦)

②履修者・修了者の実績(「学生数」「入学定員」「収容定員」は令和7年5月1日時点で記載)

[illegible]

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数

(常勤)	81	人
(非常勤)	144	人

② プログラムの授業を教えている教員数(令和7年度)

4	人
---	---

③ プログラムの運営責任者

(責任者名)	貝谷 敏子
(役職名)	教務・学生連絡会議委員長

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(名称)	公立大学法人札幌市立大学 教務・学生連絡会議
------	------------------------

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

(名称)	公立大学法人札幌市立大学教務・学生連絡会議規程
------	-------------------------

⑥ 体制の目的

札幌市立大学はデザイン学部と看護学部の2学部からなる大学であり、異なる2分野の連携を特長としており、教務・学生連絡会議は共通教育に関する事項、デザイン学部・看護学部の連携に関する事項等を担う。
本教育プログラムは、デザイン学部・看護学部両方を対象とする共通教育で展開するプログラムとなっているため、教務・学生連絡会議により、質保証および継続的改善について取り組むものである。

⑦ 具体的な構成員

教務・学生連絡会議委員長: 貝谷 敏子(副学長・看護学部長)
委員: 齊藤 雅也(副学長・デザイン学部長)
委員: 椎野 亜紀夫(デザイン学科長・デザイン学部教務委員長)
委員: 三谷 篤史(デザイン学部学生支援委員長)
委員: 松井 美穂(共通教育主任)
委員: 本田 光(看護学部教務委員長)
委員: 青柳 道子(看護学部学生支援委員長)
委員: 福原 啓祐(教務・学生支援担当部長)
委員: 高橋 嗣仁(学生課長補佐)

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和7年度履修率	2%
令和8年度予定	5%
令和9年度予定	8%
令和10年度予定	11%
令和11年度予定	14%

具体的な計画

新入学生向けのガイダンスにおいて、数理・データサイエンス・AI教育プログラムの取り組みおよび「現代社会論E(情報科学)」の学修内容について周知する。
また、ポータルシステムを活用し全学生に対しても当該プログラムの周知を行う。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

両学部生を対象にした学際教育科目として開講している。また、全学年の学生が履修可能な1年次配当科目としている。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

履修者数増加に向けて、新入学生向けガイダンスでの周知の際に以下の内容を盛り込み、学生の認知度の向上を図る。
・「現代社会論E(情報科学)」の内容が社会からの要請が高い、生成AI・AI倫理・データリテラシーを学ぶ入門科目であること。
・数理・データサイエンス・AI教育プログラムの取り組みが認定がある国としての取り組みであること。
・デザイン学部・看護学部それぞれの専門分野と関連づけた活用例を示し、履修後に身につく力を具体的に提示する。
・プログラミングを前提としない点やレポート・小テスト中心の評価方法を周知し、主な履修者である1年生にとっての心理的負担の軽減を図る。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

同時限に開講する科目をできるだけ少なくすることで「現代社会論E(情報科学)」の選択しやすさを向上させる。また、履修学生が実践的な取り組みを行う際に複数のコンピュータ教室を使用できるよう環境を整えている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

「現代社会論E(情報科学)」では、質問を各授業で配布する小テストに記入(オンデマンド授業の場合は指定の回答フォームへの入力)で受付し、次回授業で回答することとしている。このほか、大学全体としてMicrosoft365を導入しており、担当教員にTeamsチャットを使用して連絡することも可能である。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制

教務・学生連絡会議

(責任者名)	貝谷 敏子
(役職名)	教務・学生連絡会議委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		
プログラムの履修・修得状況		「現代社会論E(情報科学)」は2025年度にデザイン学部および看護学部の1年次学生を対象として開講され、履修者数は12名(デザイン学部10名、看護学部2名)であった。履修者のうち11名が単位を修得しており、初年次科目として概ね良好な修得状況であると評価できる。履修者数は開講時間帯の影響を受けてか少人数であったが、履修学生はいずれも授業への参加意欲が高く、各回の小テストや期末課題を通じて継続的に学修に取り組んでいたことが確認されている。
学修成果		本科目において、小テストおよび各回の感想は意欲的なものが多く、また授業評価アンケートにおいても、回答者全員が「学んだことを今後に活用できる」と回答しており、数理・データサイエンス・AIを課題解決のためのツールとして捉える視点が一定程度育成されたと評価できる。
学生アンケート等を通じた学生の 内容の理解度		授業評価アンケートの結果から、授業の進行スピード、要点の整理、教員の説明や配布資料の有用性については、多くの学生から肯定的な評価が得られている。特に、質問や意見に対する教員の対応については全員が「誠実だった」と回答しており、理解を促進する学習環境が整っていたと考えられる。一方で、授業内容の難易度については「やや難しかった」「難しかった」と感じた学生も一定数存在している。今後は、概念説明において具体例や身近な題材をより多く取り入れ、学生の理解度をさらに高める工夫が必要である。
学生アンケート等を通じた後輩等 他の学生への推奨度		本科目の履修を他の学生に推奨するかという設問に対しては、「推奨しようと思う」「やや推奨しようと思う」と回答した学生が大半を占めている。これは、授業内容が数理・データサイエンス・AIへの興味を喚起し、今後の学修や生活に役立つと実感された結果であると考えられる。また、担当教員以外のAITセンター教員による講演回については、「良い経験になった」との自由記述もあり、授業全体への満足度や価値認識の向上につながっている。今後も、学部や専門を問わず履修を勧められる内容となるよう、授業構成の工夫を継続する。
全学的な履修者数、履修率向上 に向けた計画の達成・進捗状況		本科目は選択科目として開講されており、開講時間の制約もあることから履修者数は限定的であった。一方で、履修した学生の評価は総じて高く、学修意欲や満足度の面では一定の成果が得られている。今後は、ガイダンスやポータルシステムを用いた学内での情報発信やシラバス記載の工夫を通じて、全学的な履修促進に貢献していく。

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点		
	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本科目は1年次向けの基礎的科目であるため、現時点で教育プログラム修了者の進路や企業からの直接的評価を把握する段階には至っていない。しかし、本授業で育成を目指す数理・データサイエンス・AIに関する基礎リテラシーや課題発見能力は、産業界において広く求められている汎用的能力と合致している。学生が専門分野に進んだ後も、データやAIを活用した思考の基盤として本授業での学修内容が活かされることが期待される。
	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	現時点では産業界からの具体的な意見は得られていないが、今後も数理・データサイエンス・AIに関する社会的な動向を本科目の授業内容に反映する。
	数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	本科目は数理・データサイエンス・AIを難解な専門技術として扱うのではなく、日常生活や学生自身の専門分野と結び付けて理解させることを重視している。授業評価アンケートにおいても、数理・データサイエンス・AIへの興味が広がったと感じた学生が多く見られ、学ぶ楽しさを一定程度伝えることができたと考えられる。今後も学生の主体的な気づきを促す授業設計を継続する。
	内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	本科目は数理・データサイエンス・AIの基礎を中心に、AITセンター教員の研究事例の紹介なども行いながら一定の学修水準を確保している。一方で、難易度を高く感じる学生が存在したことを踏まえ、今後は説明方法の改善に取り組む。具体的には、専門用語の整理、具体例や図解の充実、理解目標の明確化などを通じて、内容の水準を維持したまま理解しやすい構成とする。これにより、多様な背景をもつ学生が安心して学修に取り組める授業を実現していく。

年度	2025
講義コード	11401901
講義名称	現代社会論 E（情報科学）
科目英文名	
講義区分	講義
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
講義開講時期	後期
必修・選択区分	選択
学部等	デザイン学部・看護学部
開講年次	1年次
科目分類	学際教育科目　科学系

担当教員

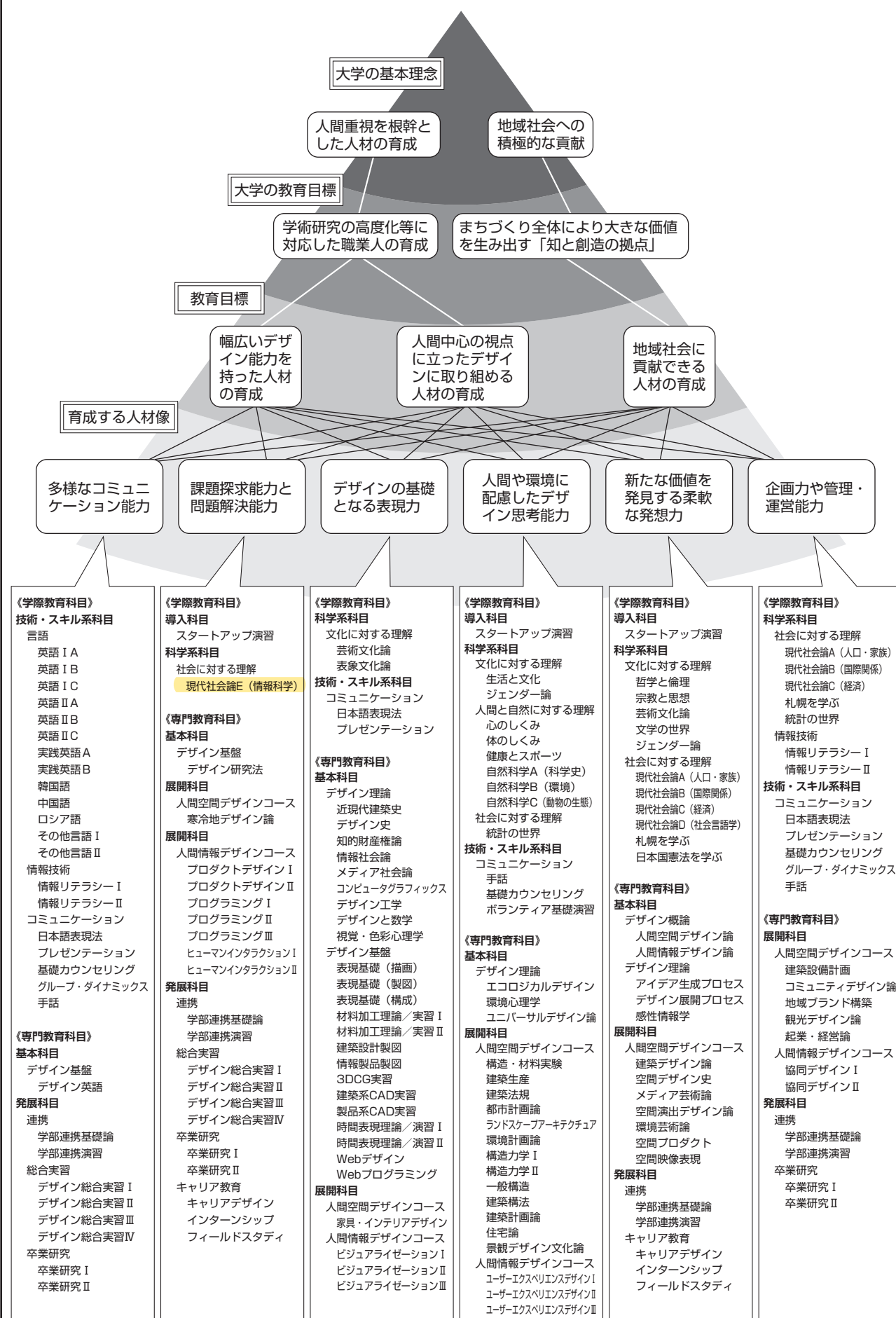
職種	氏名	所属
教育職員	◎ 高橋　茶子	AITセンター
教育職員	高橋　尚人	AITセンター
教育職員	津田　一郎	AITセンター
教育職員	岡崎　昌太	AITセンター

科目のねらい	人工知能 (Artificial Intelligence; AI) は、私たちが生活を営み、よりよい社会を目指す上で欠かせない存在になっている。 本科目では、AIおよびデータサイエンスに関する基礎的な知識とリテラシーの習得を目指す。
到達目標	①AI, データサイエンスの基本的な事項を理解する。 ②AIリテラシーの基礎を身につける。

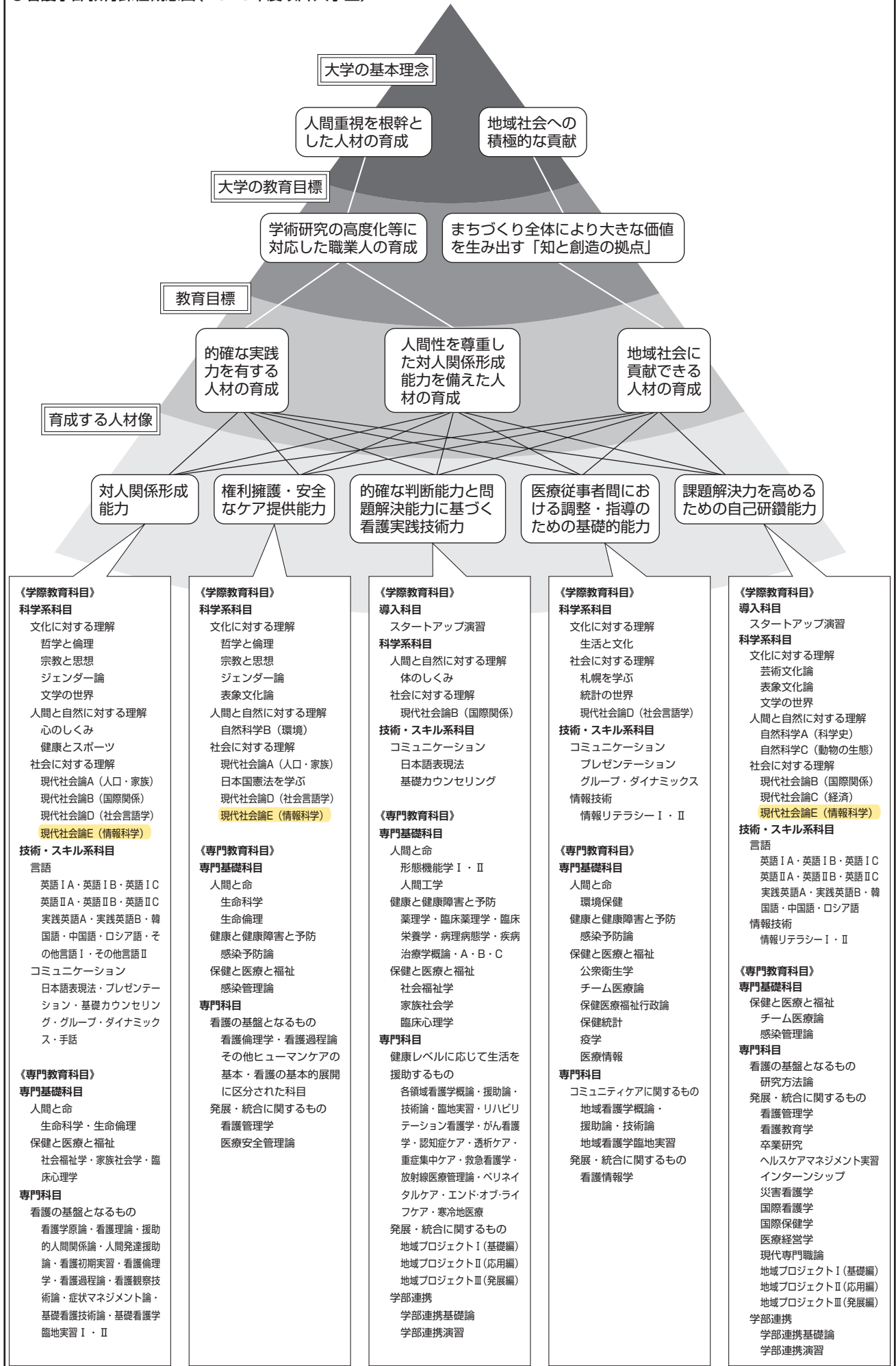
授業計画・内容（自由記述）	第1回 ガイダンス，AIと社会
	第2回 データとデータサイエンス (1)
	第3回 データとデータサイエンス (2)
	第4回 データとデータサイエンス (3)
	第5回 AIを支える機械学習 (1)
	第6回 AIを支える機械学習 (2)
	第7回 AIを支える機械学習 (3)
	第8回 深層学習入門
	第9回 情報セキュリティとAIセキュリティ
	第10回 AI・データサイエンスの倫理的・法的・社会的課題
	第11回 数理・データサイエンス・AIの事例紹介(1)

	第12回 数理・データサイエンス・AIの事例紹介 (2) 第13回 数理・データサイエンス・AIの事例紹介 (3) 第14回 生成AI 第15回 まとめ
事前・事後学習	○事前学習：授業の終わりに次回授業のキーワードや予習のポイントを紹介するので、それらについて事前に調べておく。 ○事後学習：授業資料や参考文献を参照し、授業の要点を自分の言葉でまとめておく。
教科書	適宜資料を配布する。
参考文献	適宜紹介する。
成績評価基準と方法	○小テスト：30% ○期末レポート：70% ○欠格条件：2/3以上の出席がない場合には評価対象としない。また、指定された期日までに課題が提出されない場合には、単位を取得できない。
その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）	文系・理系，専門分野，業種などを問わず，データやAIを活用した問題解決能力が重要視されるようになってきています。皆さんがそれぞれに思い描く「作りたいもの」「実現したいこと」は，データやAIを活用することで，もっと素敵に彩ることができるかもしれません。本科目を通して，ぜひそのアイデアを膨らませてください。 この科目は「イノベーション人材育成教育プログラム」のブロンズマイスター対象の科目です。

●デザイン学部教育課程概念図(2022年度(編入学生は2024年度)～2025年度(編入学生は2027年度)入学生)



●看護学部教育課程概念図(2023年度以降入学生)



公立大学法人札幌市立大学教務・学生連絡会議規程

平成18年4月1日

平成18年規程第4号

改正 平成22年規程第13号

(趣旨)

第1条 この規程は、札幌市立大学学則第16条第2項の規定に基づき、公立大学法人札幌市立大学（以下「法人」という。）に設置する公立大学法人札幌市立大学教務・学生連絡会議（以下「連絡会議」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 法人に、共通教育、学部連携等に関する重要事項を審議するため、連絡会議を置く。

(審議事項)

第3条 連絡会議は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 共通教育に関する事項
- (2) デザイン学部・看護学部の連携に関する事項
- (3) 学部連携演習に関する事項
- (4) その他理事長が付託した事項

(組織)

第4条 連絡会議は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) デザイン学部長又はデザイン学部長が指名する者
- (2) 看護学部長又は看護学部長が指名する者
- (3) 事務局長又は事務局長が指名する者
- (4) その他理事長が指名する者

2 委員は、理事長が任命する。

(任期)

第5条 前条第1項第1号のデザイン学部長が指名する者、同項第2号の看護学部長が指名する者及び同項第3号の事務局長が指名する者並びに同項第4号の委員に係る任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場

合における後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第6条 連絡会議に委員長を置き、委員の互選により選任する。

2 委員長に事故があるときは、委員のうちから委員長があらかじめ指名するものがその職務を代行する。

3 委員長は、連絡会議を招集し、会議を主宰する。

(定足数)

第7条 連絡会議は、委員の過半数の出席がなければ、会議を開くことができない。

(議事)

第8条 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長が決定する。

(委員以外の者の出席)

第9条 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を連絡会議に出席させ、説明又は意見を求めることができる。ただし、当該委員以外の者は、議決に加わる権利を有しない。

(専門部会)

第10条 連絡会議に、必要に応じて専門部会を置くことができる。

2 専門部会は、第3条各号に掲げる審議事項に関し専門的な調査及び審議を行う。

3 専門部会の委員は、委員長が任命する。

4 委員長は、必要があると認めるときは、第4条第1項各号に掲げる委員以外の者を専門部会の委員として任命することができる。

5 委員は、複数の専門部会の委員を兼ねることができる。

6 専門部会に部会長を置き、委員長の指名する者をもって充てる。

7 部会長は、専門部会において調査及び審議した事項を連絡会議に報告するものとする。

8 前各項に定めるもののほか、専門部会の組織及び運営に関し必要な事項は、連絡会議が定める。

(議事録の作成)

第 1 1 条 委員長は、議事録を作成しなければならない。

(庶務)

第 1 2 条 連絡会議の庶務は、事務局において処理する。

(委任)

第 1 3 条 この規程に定めるもののほか、連絡会議の組織及び運営に関し必要な事項は、連絡会議が定める。

附 則

(施行期日)

1 この規程は、平成 1 8 年 4 月 1 日（以下「施行日」という。）から施行する。

(委員の任期に関する特例)

2 施行日以後、平成 2 2 年 3 月 3 1 日までの間、委員に係る任期は、第 5 条本文の規定にかかわらず、2 年の範囲内で理事長が別に定める。

(委員長の選任に関する特例)

3 施行日以後、平成 2 2 年 3 月 3 1 日までの間、委員会に係る委員長については、第 6 条第 1 項の規定にかかわらず、委員のうちから理事長の指名する者をもって充てることができるものとする。

附 則（平成 2 2 年改正規程第 1 3 号）

(施行期日)

1 この規程は、平成 2 2 年 4 月 1 日（以下「施行日」という。）から施行する。

(委員の任期に関する特例)

2 第 4 条第 2 項の規定により施行日以後、平成 2 4 年 3 月 3 1 日までの間、委員に係る任期は、第 5 条本文の規定にかかわらず、2 年の範囲内で理事長が別に定める。

(委員長の選任に関する特例)

3 施行日以後、平成 2 4 年 3 月 3 1 日までの間、委員会に係る委員長については、第 6 条第 1 項の規定にかかわらず、委員のうちから理事長の指名する者をもって充てることができる。

公立大学法人札幌市立大学
数理・データサイエンス・AI 教育プログラム 自己点検評価要領

令和 8 年 2 月 25 日 学長決裁

1. 目的

本要領は、札幌市立大学において実施する数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（以下「本プログラム」という）の質保証および継続的改善を図るため、自己点検・評価の実施方法および手順を定めることを目的とする。

2. 自己点検・評価の実施組織

本プログラムに係る自己点検・評価は、公立大学法人札幌市立大学 教務・学生連絡会議（以下「連絡会議」という）が担当する。連絡会議は、点検計画の策定、データ収集、評価、改善提案の作成を行う。

3. 自己点検・評価の対象

自己点検・評価の対象は以下の項目とする。

- ・プログラムの履修・修得状況
- ・全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況
- ・履修者の学修成果および理解度
- ・数理・データサイエンス・AI を学ぶ楽しさ・意義への理解
- ・他の学生への推奨度
- ・教育方法および教材の妥当性
- ・学修環境および支援体制
- ・産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見
- ・教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

4. 自己点検・評価の方法

自己点検・評価は、以下により実施する。

- (1) 定量データの収集：履修者数、アンケート結果等
- (2) 定性評価：教員レビュー、学生意見、外部有識者等の意見の反映
- (3) 学内協議：連絡会議における協議による評価の確定

5. 自己点検・評価の時期

自己点検・評価は、原則として年度末（3 月）に実施し、次年度の教育改善に反映するものとする。必要に応じて中間点検を行うことができる。

6. 結果の取りまとめと公表

連絡会議は、評価結果を「自己点検・評価報告書」として取りまとめ、学長へ報告する。また、必要に応じて適切な範囲で大学ウェブサイト等で公表する。

7. 改善措置

自己点検・評価の結果に基づき、教育内容・体制の改善案を作成する。改善状況については、次年度の点検において検証する。

8. 附則

本要領は制定日より施行する。必要に応じて連絡会議において見直しを行う。

大学等名	札幌市立大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	SCU数理・データサイエンス・AI教育プログラム	申請年度	令和8年度

プログラムの目的

データサイエンスおよびAIの基礎的知識とリテラシーを身につけることを目指す。また、日常生活や専門領域における諸課題に対しデータサイエンスやAIの活用可能性を見出し、その解決方法を主体的に構想できる力を養うことを目的とする。

身に付けられる能力

- ・データサイエンスやAIに関する基礎的な事項の理解、データリテラシー、AIリテラシーを身に付けることができる。
- ・社会におけるデータサイエンス・AIの活用状況や活用アイデアを知ることができる。
- ・データやAIの活用上の留意事項を身につけることができる。

科目構成および修了要件

下記の対象科目を履修登録し、単位修得すること。

科目名	配当年次・開講期	単位数	授業実施方法	修了要件
現代社会論E（情報科学）	1年次・後期	2	対面	必須

実施体制

運営組織：公立大学法人札幌市立大学 教務・学生連絡会議

札幌市立大学はデザイン学部と看護学部の2学部からなる大学であり、異なる2分野の連携を特長としており、教務・学生連絡会議は共通教育に関する事項、デザイン学部・看護学部の連携に関する事項等を担う。本教育プログラムは、デザイン学部・看護学部両方を対象とする共通教育で展開するプログラムとなっているため、教務・学生連絡会議により、質保証および継続的改善について取り組むものである。



札幌市立大学
SAPPORO CITY UNIVERSITY